

## 「地域社会の参加・協働による保全管理」への取組状況

## 1. 住民アンケート調査について

## (1) 調査概要

今後の世界遺産登録に関する施策や取組をより地域の実情に沿ったものとするため、やんばる地域（沖縄島北部）及び西表島の居住者を対象として、平成 29 年 9 月～10 月（11 月まで回収・集計）にかけて世界自然遺産登録に関する意識調査を実施した。

沖縄島北部では配布件数 4,673 件（全戸配布）のうち 462 件（回収率：約 9.9%）、西表島では配布件数 1,258 件（全戸配布）のうち 252 件（回収率：約 20.0%）の回答を得た。

## (2) 調査結果

各地域のアンケート結果において、特徴的な点を下記に記す。（詳細は参考資料を参照）

表. アンケート結果の特徴的な点

観点	沖縄島北部	西表島
回答者の属性	年齢：50 代以上が 80%程度 職業：無職、農業、主婦の順に多い	年齢：30 代～60 代が各 20%程度 職業：観光ガイド、宿泊業、主婦、無職の順に多い
世界遺産推薦の認知	約 94%の方が認知	約 94%の方が認知
遺産登録への意識	約 63%が世界遺産登録に好意的	約 28%が世界遺産登録に好意的
地域の課題	1. 人口減少・少子高齢化 2. 経済活動の低迷 3. ノイヌ・ノネコの多さ	1. 海の自然環境の劣化 2. 山や川の自然環境の劣化 3. ゴミの散乱
世界遺産登録により期待できること	・地域の知名度や人気が高まる →約 75%の方が期待	・地域の知名度や人気が高まる →80%程度の方が期待
	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 60%以上の方が期待	・貴重な自然や動植物が守られる ・美しい自然が守られる →各々 20%程度の方が期待
	・観光関連の収益が増える →約 53%の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 →約 33%の方が期待	・観光関連の収益が増える →70%程度の方が期待 ・地域経済の活性化と雇用増 →40%程度の方が期待
世界遺産登録により懸念または心配すること	・自然環境の劣化 ・生きものの交通事故増 ・希少生物の無断採取増 →60～70%程度が懸念・心配	・自然環境の劣化 ・生きものの交通事故増 ・希少生物の無断採取増 →75～95%の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度
	・観光客によるゴミのポイ捨て増 ・観光案内所やトイレの不足 →70～80%の方が懸念・心配	・ポイ捨てやゴミの量の増加 ・観光施設やトイレの不足 →80～90%の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度
	・交通量が増え、道路が混雑する ・観光客が生活圏に入り騒がしい →45～55%の方が懸念・心配	・バスや船が混雑する ・観光客が生活圏に入り騒がしい →80%程度の方が懸念・心配 「とても思う」が 50%程度

### (3) 世界自然遺産に関する住民意識の現状と課題

- ・アンケート回答率は、沖縄島北部では約 9.9%、西表島では約 20%であった。世界自然遺産登録への関心が低いためアンケートに回答していない無関心層が存在する可能性がある。
- ・アンケートに回答した方の多くは、世界自然遺産への推薦を既に認知していた。一方で、前述のように遺産登録に関心が低い方も多いため、普及啓発活動を継続し、より多くの方に関心を持ってもらうことが重要。
- ・沖縄島北部では、人口減少・少子高齢化及び経済活動の低迷が大きな課題となっている。
- ・世界遺産登録により、地域の知名度が高まることが期待されているものの、地域経済の活性化や人口減少の歯止めについては、期待が薄い現状にある。したがって、世界遺産登録及びその後の管理に係る取組・事業を進めるにあたり、このような社会経済的な課題を踏まえ、観光や産業振興等に係る関係機関と連携していくことが重要と考えられる。
- ・自然環境の観点からは、多くの地域住民が沖縄島北部の自然を大切であると感じており、世界自然遺産により自然や景色が守られると期待する一方、自然環境劣化や生きものの交通事故、違法採取が増えるという懸念も同程度存在した。世界自然遺産に向けた取組においては、自然環境保全の取組を着実に進め、沖縄島北部の自然を確実に守っていくことが必要である。
- ・また、地域の課題として、ノイヌ・ノネコの多さが問題であると認識されていた。既にノイヌ・ノネコの捕獲等が進められているため、その取組を強化するとともに、成果について情報発信することにより地域住民の不安を払拭していくことが必要である。
- ・観光利用の観点からは、観光関連の収益が増えると期待する意見が半数程度あるものの、観光客によるゴミのポイ捨て増加や生活圏に入込みなどを不安視する意見がある。加えて、観光案内所・トイレ等の施設が不足するなど、観光客を受入れる体制が不十分であると認識されており、観光利用の受入れ体制を強化することが必要と考えられる。
- ・今後は、住民の期待や懸念・心配を踏まえた上で、世界遺産登録に向けた自然環境保全等の取組を着実に実施し、その具体的な取組内容や成果について情報発信を行うことが必要であると考えられる。

## 2. 普及啓発に関連する事業の取組状況と次年度の予定について

行動計画の事業 項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 <関係する会議体>	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容 (案)
					6) 地域社会の参加・協働による保全管理	
5 普及啓発活動 の実施	環境省	地域の子供たちへの 普及啓発活動	沖縄島北部 3 村全域を 含む沖縄県 全域	子供たちに地域の自然・ 文化に興味をもってもら うため、小・中学校の授 業における環境学習を充 実させる。また、辺土名 高校の環境科において は、世界遺産教育を念頭 においたカリキュラムの 導入を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「やんばるの自然と遊ぶワークブ ック」国頭村教職員対象研修を实 施</li> <li>○地元の保育園及び学童に対して、 世界遺産に関する簡単な講話を实 施</li> <li>○国頭村及び東村内の小学校と協働 でヤンバルクイナの生息状況調査 を実施</li> <li>○小・中学校のクラブ活動講師、校 外学習講師、野外授業講師として 普及啓発を実施</li> <li>○各村教育委員会と自然体験活動協 議会との連携に向けた調整を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「やんばるの自然と遊ぶワークブ ック」国頭村教職員対象研修を实 施</li> <li>○国頭村及び東村内の小学校と協働 でヤンバルクイナの生息状況調査 を実施</li> <li>○小・中学校のクラブ活動講師、校 外学習講師、野外授業講師として 普及啓発を実施</li> <li>○各村教育委員会と自然体験活動協 議会との連携に向けた調整を実施</li> </ul>

行動計画の事業項目	実施主体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
					<ul style="list-style-type: none"> <li>○3 村役場職員に対する研修において制度説明等を実施</li> <li>○やんばる国立公園の懇談会、説明会を通じて世界自然遺産に関する説明を実施</li> <li>○やんばる国立公園及び世界遺産に関して、大宜味村 20 字及び国頭村の 1 字において説明を実施</li> <li>○一次産業従事者や観光事業者向けに世界自然遺産の利活用に関する説明を実施</li> <li>○地元イベントにおいて、普及啓発ブースの出店</li> <li>○ネコの適正飼養に関する普及啓発イベントを実施</li> <li>○侵略的外来種の防除に関する普及啓発イベントを実施</li> <li>○地域住民等と連携した侵略的外来種の防除活動を実施</li> <li>○やんばる国立公園のポスターを複製</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○やんばる 3 村の事業者別の自然公園法に関する制度の普及啓発を実施</li> <li>○やんばる国立公園及び世界自然遺産に関して、国頭村及び東村において説明を実施</li> <li>○一次産業従事者や観光事業者向けに世界自然遺産の利活用に関する説明を実施</li> <li>○地元イベントにおいて、普及啓発ブースの出店</li> </ul>
	環境省	地域住民への普及啓発活動	沖縄島北部 3 村全域を含む沖縄県全域	国立公園指定、世界自然遺産登録に向けての制度内容、進捗等の周知を図る。また、世界自然遺産の保全と利活用の推進を図る。		
	沖縄県(自然保護課)	世界自然遺産普及啓発委託業務	沖縄島北部 3 村全域を含む沖縄県全域	沖縄島北部や西表島の遺産価値を県内外に PR するための映像コンテンツや、その他の普及啓発媒体を作成・提供し、地域住民を始めとする一般市民への普及啓発を図り、世界自然遺産登録に向けた機運を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般県民に加えて遺産推薦地の住民へ重点を置き、普及啓発を実施していった。(フォーラム開催、写真展開催、広報誌掲載、地域イベント出展等)</li> <li>○前年度に引き続き既存ツールを利用した普及啓発を実施するとともに、新デザインポスター、マグネットステッカー及びのぼりの作成、SNS 及び 4 町村広報誌を活用した普及啓発等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界遺産委員会登録発表パブリックビューイングの開催(鹿児島県連携)</li> <li>○登録記念イベントの開催</li> <li>○パンフレットの遺産登録版への更新</li> <li>○4 町村広報誌を活用した普及啓発</li> <li>○モノレールラッピングを活用した一般県民、観光客等への普及啓発</li> </ul>

行動計画の事業項目	実施主体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	沖縄県(自然保護課)	地域部会運営支援業務	沖縄島北部 3 村	地域部会における検討状況や世界遺産登録に向けた動きなどについて住民に情報発信を行うとともに、アンケート調査を行い住民意識を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○沖縄島北部 3 村の住民を対象として遺産登録前の意識調査（アンケート）を実施した。</li> <li>○「やんばる世界遺産だより」を発行し、地域住民への情報発信を行った。（1 回発行済、3 月に次号発行予定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○沖縄島北部 3 村の住民を対象として遺産登録可否決定後の意識調査（アンケート）を実施する。</li> <li>○「やんばる世界遺産だより」を発行し、地域住民への情報発信を行う。</li> </ul>
	国頭村(世界自然遺産対策室)	国立公園、世界自然遺産推薦地の普及啓発	国頭村全域	国立公園指定、世界自然遺産登録に向けての制度、進捗等の理解醸成、周知を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○のぼりや木製バッジ、懸垂幕等の製作及び村広報誌やホームページを活用し、世界自然遺産登録に向けた機運を醸成した。</li> <li>○3 村世界自然遺産推進協議会による保全の取り組みを実施した。</li> </ul>	○グッズ等の製作及び村広報誌やホームページを活用し普及啓発を図る。
		琉球大学地域連携事業	国頭村全域	役場職員及び関係機関の職員を対象に、世界自然遺産に係る研修等を行い、啓発する。	○3 村役場職員研修会及び3 村長によるパネルディスカッションを行った。	○役場職員及び関係機関の職員を対象に、世界自然遺産に係る研修等を行う。
	大宜味村（企画観光課）	村内への周知及び広報等	大宜味村全域	世界自然遺産登録関連の取り組みについて、地域住民へ普及啓発を行う。	県作成のシール及びクリアファイル等を各字に配布、村広報誌に世界自然遺産に向けた取り組みを掲載した。	村広報誌や村ホームページにて世界自然遺産登録に向けた取り組み等を掲載。登録可否決定後は、その旨住民へ周知を行う。

行動計画の事業 項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）
	東村(企画 観光課)	・東村PR事業 ・村内外への周知及 び広報等	東村全域	・機運醸成用の村民参加 型ポスター作成及び掲 示。 ・世界自然遺産登録関連 の取り組みについて、 地域住民へ普及啓発を 行う。	○広報誌やホームページ、横断幕、 幟、村や県が作成した機運醸成用 ポスターの掲示、県作成機運醸成 用パンフレット、クリアファイル 等の各世帯への配布。 ○小中学校への機運醸成用クリアフ ァイル、パンフレットの配付。 ○村外での普及啓発活動。 ○村立博物館での普及啓発イベン トの実施。 ○祭りでの普及啓発活動。	○広報誌やホームページ、幟、横断 幕の設置。 ○村立博物館での普及啓発イベン ト。 ○祭りでの普及啓発活動。 ○関係機関との連携。 ○村外での普及啓発活動。
	琉球大学 与那フィー ールド	オープンフォレスト	与那フィー ールド(演習 林・里山研 究園)	2年に1度、一般の方を 対象に演習林の森林を観 察していただくイベント を開催している。	(平成29年度は実施しない。次回は 平成30年度。)	一般の方を対象に、与那フィールド の自然を観察し、教育研究活動など を紹介するイベントを開催する。
	琉球大学 与那フィー ールド	琉球大学公開講座	与那フィー ールド(演習 林・里山研 究園)、国頭 村森林公園 等	琉球大学の公開講座を与 那フィールド等を使用して 開催している。プログラ ムの内容によっては、 国頭村森林組合など地域 の団体の協力を得て実施 している。	森林および林業地の見学、国頭村森 林組合の工場見学、育林体験、木工 体験などのプログラムを提供した。	森林および林業地の見学、国頭村森 林組合の工場見学、育林体験、木工 体験などのプログラムを盛り込んだ 講座を提供する。
	琉球大学 与那フィー ールド	各種研修・実習・研 究等の受け入れおよ び実施	与那フィー ールド(演習 林・里山研 究園)	森林や施設を、学内に限 らず他大学や他団体の研 修・実習等にも広く使っ てもらい、沖縄島北部の 自然に関する普及啓発や 意識の向上に寄与する。	他大学生を受け入れる「公開森林実 習」を開講した。辺土名高校環境科 の「宿泊学習」や、沖縄県立総合教 育センターによる理科教員の「野外 実習」などを受け入れた。	「公開森林実習」は継続的に開講す る。その他は要望に応じて受け入れ る予定である。

行動計画の事業 項目	実施主 体	事業名	対象地	事業概要 ＜関係する会議体＞	平成 29 年度実施内容	平成 30 年度事業内容（案）